

土木学会鋼構造委員会（平成 15・16 年度 第 4 回）議事録（案）

日 時：平成 17 年 5 月 20 日（金）14:00～16:15

場 所：土木学会土木会館 A・B 会議室

出席者：長井委員長，角副委員長，阿部顧問、倉西顧問、西野顧問、森幹事長，麻野、越後、大田、大森、岡本、春日、川井、北田、清宮、後藤（芳）、坂井、坂野、杉井、鈴木、中島、奈良、西川、西村、野上、日野、平岡、藤原、堀口、本田、森、横田、五十畑、宇佐美、計良、大垣、田中、野澤、堀田、本間、柳本、山本の各委員（以上 42 名）

配布資料：

- 4-1-1 平成 15・16 年度第 3 回委員会議事録案
- 4-1-2 平成 15・16 年度第 7 回幹事会議事録
- 4-1-3 平成 15・16 年度第 8 回幹事会議事録
- 4-2-0 小委員会一覧
- 4-2-1 浮体橋の研究小委員会
- 4-2-2 木橋技術小委員会
- 4-2-3 ケーブル系橋梁の合理化検討小委員会
- 4-2-4 座屈設計ガイドライン改訂小委員会
- 4-2-5 高力ボルト摩擦接合継手の設計法に関する調査検討小委員会
- 4-2-6 歴史的鋼橋の補修・補強に関する調査小委員会
- 4-2-7 鋼構造設計標準の国際化対応小委員会
- 4-2-8 鋼構造継続教育推進小委員会
- 4-2-9 3 次元有限要素法の鋼橋設計への適用に関する研究小委員会
- 4-2-10 鋼構造の残存耐荷性能評価と耐久性向上方策研究小委員会
- 4-2-11 鋼橋の振動・騒音に関する環境負荷低減工法の評価検討小委員会
- 4-2-12 厚板溶接継手の性能評価に関する調査研究小委員会
- 4-2-13 鋼構造物の点検・モニタリングに関する新技術調査小委員会
- 4-2-14 鋼・合成構造標準示方書小委員会
- 4-2-15 鋼橋の支持機能検討小委員会
- 4-2-16 土木鋼構造物の設計法に関する調査検討小委員会
- 4-2-17 道路橋床版の調査研究小委員会
- 4-2-18 道路橋床版の合理化検討小委員会
- 4-2-19 鋼・コンクリート合成構造連合小委員会
- 4-2-20 土木構造物荷重指針連合小委員会
- 4-3-1 「鋼構造物の耐震補修・補強調査研究小委員会」設立趣意書
- 4-3-2 学会への要望書（中越地震第 2 次調査団）
- 4-4 委員長候補者の選出手順
- 4-5 平成 16 年度鋼構造委員会予算案
- 4-6-1 関連学協会報告（橋梁建設協会）
- 4-6-2 関連学協会報告（鉄鋼連盟）
- 4-7 平成 17 年度「橋と鋼構造に関するシンポジウム」プログラム
- 4-8 平成 17 年度全国大会研究討論会への応募書類（鋼構造委員会）
- 4-9 特別研究費への応募および結果
- 4-10 海外交流実績と計画
- 4-11 鋼構造委員会の活動度評価結果
- 4-12-1 土木学会各種論文集の満たすべき基準等に関する調査依頼について
- 4-12-2 土木学会 委員会論文集の満たすべき基準（案）
- 4-12-3 調査票（鋼構造と橋に関するシンポジウム論文報告集）
- 4-12-4 調査票（道路橋床版シンポジウム講演論文集）

4-12-5 調査票（木橋技術に関するシンポジウム論文報告集）

4-12-6 調査票（複合構造の活用に関するシンポジウム講演論文集）

議事：

1. 前回議事録確認

- 1) 前回委員会議事録（案）（資料 No. 4-1-1）が読み上げられ、承認された。
- 2) 幹事会議事録（資料 No. 4-1-2、4-1-3）については、一読願いたいとの依頼がなされた。

2. 小委員会活動報告

- 1) 資料 No. 4-2-0～4-2-20 に基づき、各小委員会より報告がなされた。主な内容は以下のとおりである。
- 2) 「浮体橋の研究小委員会」
 - ・出版完了とこれに伴う講習会開催時まで委員会を存続させることが承認された。
- 3) 「木橋技術小委員会」
 - ・本小委員会は 11 月で終了予定である。本田委員長より引き続き、木橋に関する新しい小委員会を設けたいとの意見があった。新小委員会設立については、趣意書を幹事会に提出することが確認された。次回幹事会は 6 月 16 日に開催の予定。
- 4) 「ケーブル系橋梁の合理化検討小委員会」
 - ・本小委員会の実質的活動は、報告書の編集活動のみであるが、講演会開催まで小委員会を継続することが承認された。また、北田委員長より、報告書（案）の提示があり、回覧された。
 - ・ケーブル構造物の限界状態について、およびエクストラロード橋のケーブルの安全率に対する報告書の取り扱いに関して質疑、応答があった。
- 5) 「座屈設計ガイドライン改訂小委員会」
 - ・出版完了とこれに伴う講習会開催時まで委員会を存続させることが承認された。
- 6) 「高力ボルト摩擦接合継手の設計法に関する調査検討小委員会」
 - ・来春に講習会を予定している。
- 7) 「歴史的鋼橋の補修・補強に関する調査小委員会」
 - ・委員会成果の出版を来年度に予定している。期間延長の申請を予定している。
- 8) 「鋼構造継続教育推進小委員会」
 - ・現川井委員長より奥井委員長に交代。
- 9) 「3次元有限要素法の鋼橋設計への適用に関する研究小委員会」
 - ・鋼橋設計に3次元有限要素法を適用するに当たり、適用して有効となるものと有効とならないものを区別して考える必要があるとの意見があった。
- 10) 「鋼・合成構造設計標準示方書小委員会」
 - ・現西村委員長より長井委員長に交代。海外交流部会の設置（部会長、奥井幹事）

3. 新設小委員会設立

資料 No. 4-3-1、4-3-2 に基づき、「鋼構造物の耐震補修・補強調査研究小委員会」の設立趣旨、活動計画が報告され、設立が承認された。なお、審議にて以下の要望・意見があった。

- ・補修・補強に対して調査研究を行う場合、事例収集に留まることが多い。未来に対してどのような補修・補強が望ましいかの「提案」がなされることを期待する。

4. 次期委員長候補者

森幹事長より、資料 4-4 に基づき、「委員長候補者の選出手順」が確認され、今回選挙に至らなかった経緯の説明があった。推薦が得られなかった場合の選挙手順に従い、長井委員長より、次期鋼構造委員長候補として、依田照彦委員が推薦され、承認された。

5. 平成 17 年度鋼構造委員会予算案
森幹事長より、資料 4-5 に基づき、平成 17 年度予算案の説明があり、承認された
6. 委員長、副委員長挨拶
長井委員長、角副委員長より、「色々と新しいものにチャレンジした 2 年間であったが、各位の活動の協力により終了することができました、感謝します」とのお礼が述べられた。
7. 関連学協会報告
 - 1) 日本橋梁建設協会
大森委員より資料 4-6-1 に基づいて、組織の改組および活動の重点施策が報告された。
 - 2) 日本鉄鋼連盟
岡本委員より資料 4-6-2 に基づいて、「高性能鋼の概要」が紹介された。また、JIS 化を目指した活動を行うかとの質問があり、その方向で活動する旨の返答があった。
 - 3) 日本鋼構造協会
なし。
8. その他報告事項
 - 1) 第 8 回鋼構造と橋に関するシンポジウムについて
本間幹事より、資料 4-7 に基づいて、第 8 回鋼構造と橋に関するシンポジウム「海外における鋼構造と橋、実例と動向について」を 8 月 4 日に土木学会講堂にて開催予定との報告がなされた。
 - 2) 平成 17 年度全国大会研究討論会案について
資料 4-8 に基づいて、平成 17 年度全国大会研究討論会に「次世代鋼橋設計基準を考える一橋の性能、姿はどう変わるか」と題して応募したこと、本年より従来と異なり、一般セッションと併行して開催されることが報告された。
基準が変われば性能は変わるが、橋の姿は基準で変わるのではなく、アイデアで変わるとの意見があった。
 - 3) 研究費の応募結果
資料 4-9 に基づいて、土木学会調査研究部門の平成 17 年度「重点研究課題」に「鋼・合成構造標準示方書の作成」を応募した結果、100 万円の研究助成金が得られたことが報告された。なお、研究助成金は全体で 100 万円が 5 件、50 万円が 1 件認められた。
 - 4) 海外交流実績と計画
資料 4-9 に基づいて、東アジアコード作成に向けての海外交流の実績、予定が報告された。
アジアはヨーロッパと異なり熱帯気候という特異性があり、これを考慮した戦略をたてることが望ましいとの意見があった。
 - 5) 鋼構造委員会の活動度評価結果
平成 15 年度の鋼構造委員会の活動評価が「A 評価」であったことが報告された。
 - 6) 土木学会各種論文集の満たすべき基準等に関する調査依頼について
資料 4-12-1~4-12-6 に基づいて、土木学会調査研究企画委員会よりの調査依頼に対する調査結果の報告があった。
講演資料と論文集の区別方法について議論された。

【話題提供】（16：30～17：45）

新潟県中越地震による鋼構造物等の被害状況
長岡技術科学大学 岩崎 英治 氏
JR 東日本 野澤 伸一郎 幹事

以上